

讚美歌が心の支えに

6月25日（土）午前10時より、遺愛女子中学校のオープンスクールが開催されました。全部で100組250名以上の方が見学に来て下さいました。昨年の倍以上でした。心から感謝します。公開授業、制服の試着、英語で遊ぼう！！、キーホルダー作り、バター作り、腕相撲チャレンジなど盛りだくさんの催し物や展示がありました。講堂で行われた学校説明会では、パワーポイントによる1年間の行事紹介や遺愛中学生の1日の生活の様子が紹介されました。ステージでは、剣道、バスケ、羽球、新体操、弓道、バレーボール、茶道、吹奏楽、イラスト、英語部など各部活が工夫をこらした部活紹介をしていましたおり、小学生がじっと食い入るように見ていたのが印象的でした。最後に、遺愛の中高一貫教育の特色、入学試験の説明がありました。現在の6年生から入試制度が変わりますので、お子さんも保護者の方々もとても熱心に説明を聞いていました。

学校説明会が始まる前に、校長室に1組の親子が尋ねてきました。お母さんは20数年前に遺愛を卒業した卒業生でした。在学中は遺愛が嫌でたまらなかったけれど、卒業してみると、遺愛で中学高校生活をおくれて本当に良かったと思っています、今では亡き両親に遺愛に通わせてくれたことを心から感謝しているとのことでした。そして、在学中、礼拝で歌った讚美歌が、人生の大変なときに自然と口からでてきて、支えられたそうです。

遺愛では、行事や部活などを通して楽しい充実した学校生活を送ること、よき友人をつくること、将来の可能性を開くために高い学力を身につけることともに、卒業後、それぞれの歩みの中でぶつかる困難をのりこえる知恵、力を3年間あるいは6年間で身につけていただきたいと願っています。このような卒業生のお話は本当に嬉しく思いますし、励まされます。

2011年6月27日（火）

